

## 評価

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

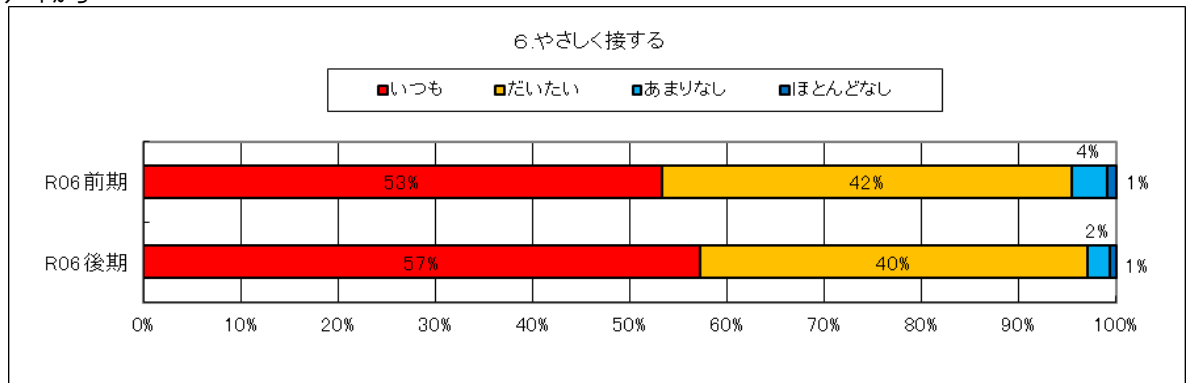
## Ⅱ 思いやりの心

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント
相手の立場を思いやり、仲良く助け合って生活しようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	①「学級力アンケート」を通してよりよい学級づくりを一層努力してほしい。②学級の一人という自覚を育てることは常に大切にしたいことである。③活動への責任の自覚とやりがいがあるような支えをしっかりとお願いしたい。④高学年児童として下学年とのかかわりは自己有用感をもてる人間づくりのよい機会と捉え、自信を持ってかかわっていけるように事前・事後指導も大切をお願いしたい。
	年度	良好	良好	①学級力の向上は一人一人の所属意識の向上だけでなく、自己有用感の向上にもつながると考える。評価を児童の成長につなげたい。②係活動と当番活動が学級および委員会活動へ相乗効果をもたらしているようだ。今後さらに期待したい。③児童の活動に教師が関心を持つことは大切である。このような職員集団でいてほしい。④縦割り班活動の有効性を考慮し、可能な限り時間増を工夫して欲しい。「体力テスト」の縦割り活動に期待したいところだ。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（一年度）】			
	<p>①新しい仲間との関係をつくることに困難さを感じ、新しい学級になじめなかったり、孤立したりする姿が見られたりと、集団での学びにも影響が出ているのではないかと考えられる。そのため、学習集団づくりの一つとして、『学級力アンケート』を活用することにした。</p> <p>②学級では係活動だけでなく、3年生以上は「当番活動」にも取り組んでいる。係活動は、学級をよりよくするために、チームで話し合い工夫しながら活動していくことで創造性や実行力が育っていくことが期待される。また、『当番活動』は、一人一役になることが多く、学級になくはならない仕事に取り組むことで、責任感が生まれると考えられる。学年によっては、当番活動に変化を付けながら持続的に仕事に取り組めるように工夫している。このような活動が、学級から委員会活動へ広がり、学校をよりよくする活動へとつながられるように工夫していきたい。</p> <p>③今年度から委員会活動を、親しみやすい名称に変更し、5・6年生のみの活動にした。新設された委員会もある中、4月当初から内容や取り組み方を工夫して、主体的に活動している姿が多く見られる。放送の呼びかけだけでなく、「いちよう集会」で活動を紹介する時間を設けることで、リーダーシップの育成にもつながっている。また、他の委員会の活動にも関心をもってもらうために、代表委員会で話し合う内容を事前に知らせ、一緒に問題を解決することで、複数の委員会が一緒に活動する場面も見られた。</p> <p>④縦割り班活動（絆っ子タイム）では、遊びや読み聞かせを中心にした活動にした。6年生の事前準備や計画により、スムーズに仲良く活動できている。この活動を通して、異学年交流での自己有用感を育てる機会にしたいと考えている。</p> <p>〈後期の取組〉</p> <p>①『学級力アンケート』から、学級内での課題やよさを確認していく。課題について、学級力を上げるための取り組みを話し合い、その後また、アンケートを取るという活動を繰り返しながら、学級力を上げていく。学年によっては、掲示場所を決めて、見える化し、意識を継続する取り組みを行っている。さらに、よい取り組みについて、他の学年とも共有していきたい。</p> <p>②4年生の委員会への加入が遅くなったことで、上級生の活動をじっくり見て、選ぶことができればと思う。また、代表委員会を活用して、委員会同士のつながりを設けたり、委員会同士の垣根を越えたりと協働した活動ができればと思う。</p> <p>③これまでコロナ禍の影響で、縦割り班活動が減り、上級生として異学年交流の進め方やトラブル対応の仕方などを学べる機会が少なかった。担任の事前指導に加え、縦割り班担当の教員がフォローをすることで、高学年の自己有用感を育てていきたい。また、同時に各学年の担任の事前事後指導を充実させ、下級生のフォローアップも育てていく。</p>			
自己評価の概要と学校の改善策	【年度（一次年度）】			
	<p>①年に数回行ってきた「学級力アンケート」を活用して、課題に対する取り組みを変えながら、子どもたちによる学級づくりが行われていた。是非、次年度も活用し、学級づくりへ生かしていきたい。さらに、掲示場所やデータの保存、活用の仕方を考えていきたい。</p> <p>②係活動・当番活動を二本立てで行うことで、学級活動が活性化し学級が増えた。学級の活動が委員会へ生かされたり、委員会の活動が学級活動へ生かされるよさが見られた。そのため、3年生以上は、引き続き当番活動を取り入れたい。</p> <p>③代表委員会では、委員会活動の振り返り、次月の活動の内容を確認することで、複数委員会同士のコラボ企画が開催されるようになった。また、代表委員会で確認したことがいちよう集会につながっている。教師の代表委員会への出席が増えたことで、他の委員会における活動が、教師側でも共通理解することができてきている。委員会同士のつながりが見えてきたので、さらに、学級とのつながりをもてるような内容も取り入れたいと考える。</p> <p>④縦割り活動（絆っ子タイム）の回数や内容を再度見直し、もっと自己有用感をもてる人間づくりの場になるようにしたい。さらに、学習活動内でも縦割り活動が意図的に計画できるようにしたい。試験的に、来年度は、「体力テスト」で実施してみよう予定である。</p>			

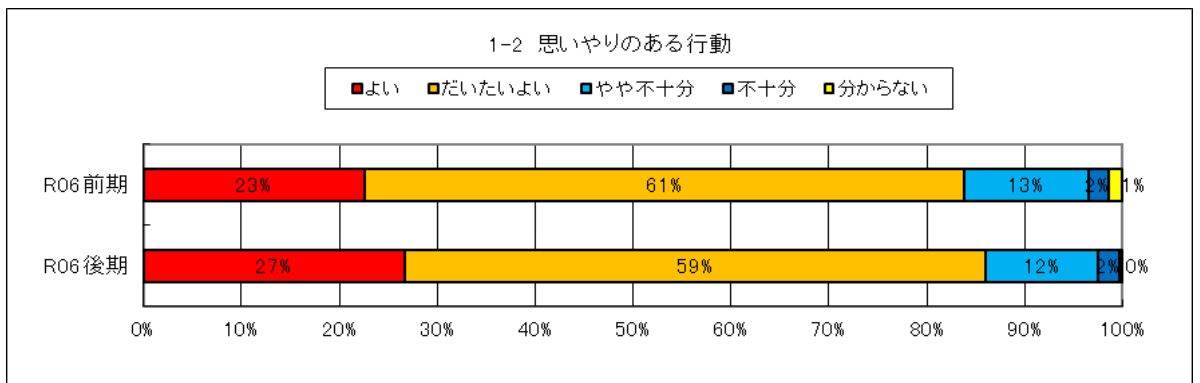
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 一人一人のよさの発揮	(4)一人一人に居場所と活躍の場のある学級	学級の係活動、当番活動の充実	3	4
		学級における自己肯定感・自己有用感を高める取組		
4 集団生活・集団活動	(5)他とかかわる諸活動の充実した学校	児童会活動・クラブ活動における積極的な異学年交流	4	4
		縦割り班活動の充実（絆っ子タイム等）		

※学校教育アンケートから

(児童)



(保護者)



全校を巻き込む内容

いちよう集会での委員会発表では、全校を巻き込む内容が増え、全校の課題や取り組みについて、他人事ではなく、自分事として考えることができるようになってきて、しっかり聞き、反応することができている。



あいさつについて、全校学級会を行い、それぞれの学級で企画した「あいさつ運動」が行われた。今までと違い、自分たちで日にちや時間、内容を話し合い、決定することで、前向きに取り組む姿が多く見られた。



「代表委員会」では、委員長や代表委員による活発な意見交換が多く見られた。代表児童の責任感やリーダー性が発揮される場になった。



学級力アンケートを活用して、学級のよいところ・課題に気付くきっかけになった。学級会を活用して話し合い、取り組みを決めて、取り組む学級が増えた。